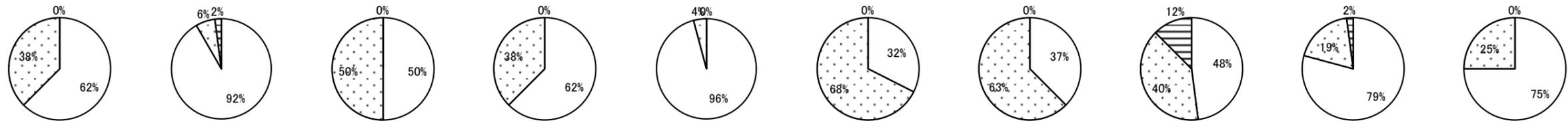


提案型市民主役事業(H29実施分)事後評価 設問別分析結果

	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10
内容	市民が誇りややりがい、そして楽しみを持って参画できる事業となりましたか。	「民」が実施主体となって実施することは、今後可能ですか。	参加者や受益者等が満足できる事業内容でしたか。	委託者と受託者間での相互理解や事業目的の共有は図られましたか。	受託者が業務の「下請け」になっていませんか。	前年度と比較して、成果の向上はありましたか。	事業の広がりや波及効果はありましたか。	事業の実施により、将来的に人づくりや市民同士の連携の強化。「市民の自立」「自治力」の高まりにつながるものでありましたか。	事業の実施にあたり、スケジュール的に無理はありませんでしたか。	事業の実施にあたり、実施団体としての特性は活かされましたか。
分析結果	民の持つ斬新な視点が所々に盛り込まれており、評価を見る限りでは市も受託団体側も市民が誇りややりがい、そして楽しみを持って参画できる事業となったと感じている。今後も引き続き市民主役事業化制度の精度を上げ、より有意義な事業となるよう目指す。	実施した事業については、市も受託団体側も「民」が実施主体となって実施することは、今後十分に可能であると考えている。中には「民」が担うことが妥当とまで判断された事業もある。	市も受託団体側も、参加者や受益者等がおおむね満足できる事業内容であったと判断している。今後は、参加者アンケートだけでなく、事業完了後の反省会を徹底するなど、より一層事業の分析に力を入れる必要がある。	委託者と受託者間での相互理解や事業目的の共有については、事業前だけでなく、年度途中にも話し合いの場をこまめに持つなどして、十分相互理解を図った上で事業を展開していた。今後も引き続き、相互理解や事業目的の共有を図っていく必要がある。	市も受託団体側も、ほぼ下請け感はなかったと判断している。市民主役事業は単なる委託事業ではないということが浸透していると判断できる。また、そうならないように今後も引き続き、委託側と受託側のコミュニケーションが重要と考える。	前年度と比較して、特に受託側において成果の向上を感じている割合が増えた。今後より一層しっかりと目標値を定めて取り組むことで、本項目の評価向上が見込まれる。	継続して提案型市民主役事業として実施することにより、徐々にではあるが、事業の広がりや波及効果が見込まれてきていると判断されている。しかしまだまだ十分とは判断できない状態であり、今後も引き続き実施することにより、波及効果が現れてくることを期待したい。	昨年と比較して「十分」と回答した割合が大幅に増加した。継続して市民団体等が実施してきたことにより、「市民の自立」「自治力」の高まりにつながってきたと考えられる。ただ全体で見るとまだまだ十分とは言えず、引き続き可能性を模索していくべきだと言える。	昨年同様に市と受託団体側で評価に違いが見られた。スケジュール管理に関してはまだ十分にコミュニケーションが取られているとは言い難い状況だと言える。事前にしっかりと協議を行うなどして、時間的余裕を持って対応できる体制をつくる必要がある。	事業の実施にあたり、十分に実施団体としての特性は活かされたと判断している。今後も、市民団体等の特性を活かした提案を募集したい。

【市】

◎	30	44	24	30	46	12	18	23	38	36
○	18	3	24	18	2	25	30	19	9	12
×	0	1	0	0	0	0	0	6	1	0



【受託団体】

◎	33	39	26	31	44	19	22	22	26	34
○	15	9	21	14	3	17	23	24	18	14
×	0	0	1	3	1	1	3	2	4	0

